

「松永に学ぶ産業と文化」 平成 30 年度実施報告

共同利用センター 鶴崎 健一

本学では、地域に貢献できる人材を輩出するために、共通教育科目の教養教育科目群として「F 群（地域学）」を設置し、平成 29 年度から「備後に学ぶ地域の課題」という科目を実施している。2 年目となる平成 30 年度の実施内容について報告する。

平成 30 年度の実施概要

本科目は、福山市経済環境局文化観光振興部 文化振興課に協力いただき、「松永はきもの資料館」（あしあとスクエア）を利用した科目で、学生自身で学習課題を考え、調査研究を行うことで地域社会のあり方を考える科目である（参考資料 1）。

受講生については、受講説明会（参考資料 2）に参加したのは 5 名であったが、実際の受講は 3 名であった。受講生が少人数であったので鶴崎だけで担当することにした。受講生と個別の面談曜日時間を決め、2 週間に 1 回を目安に面談を行うことにした。

受講生 3 名は、4 月 21 日（土）に「松永はきもの資料館」を見学した。10 時に「松永はきもの資料館」に集合し、見学の前に、「松永はきもの資料館」の岡本浩男事務長に「松永はきもの資料館」の成り立ちや展示物の概要について紹介していただいた。その後、岡本氏の案内で、館内の見学を行った（写真 1）。

「松永はきもの資料館」見学の翌週から、ほぼ 3 回の面談で、各学生の学習テーマを絞っていった。

6 月から 7 月にかけては、テーマの絞り込みや見直しをしながら、学生に関連資料の調査をしてもらい、内容のチェックのための面談をほぼ 2 週間に 1 度のペースで行った。

前期中にほぼ調査内容を確定し、8 月から 9 月の夏休み期間中は学生と Cerezo で 2 週間に 1 度のペースで連絡を取りながら、学習を進めることにした。

9 月の後期の初回には、夏休み期間中の調査も含めた中間報告をしてもらった。その内容をもとに、今後の方針について検討し、「松永はきもの資料館」での発表会（12 月 15 日）までに完成する目標を立てた。その後、11 月中旬までは、前期同様にほぼ 2 週間に 1 度、面談をしながら内容を深めていった。

11 月中旬以降は、発表用のパワーポイントのスライドの作成、発表の練習などのため、面談のペースを週に 1 回に変更し、学生の進展具合によってはさらに頻度を高めて、発表の準備を行った。また、発表会については、公開で行うこととし、大学教育センターの日暮助手の協力で広報用のポスターやチラシ（参考資料 3）を作成し、学内への配布、および、「松永はきもの資料館」の岡本氏の協力で学外にも配布した。

発表会当日は、9 時に「松永はきもの資料館」に集合し、10 時から参考資料 3 の順で一人 20 分程度ずつ学生による発表（写真 2）を行なった。そして、それに対する岡本氏による講評（写真 3）をいただいた。

発表会での質疑応答の結果を受け、1 月 30 日を期限に受講生ごとに最終報告のレポートを作成した。



写真 1 「松永はきもの資料館」の見学

平成 30 年度の成果・発表について

「松永はきもの資料館」には、履物以外にも、全国の玩具や松永地域の伝統産業に関する機械などが展示されていたため、学生が最初に考えたテーマは、1 名は履物に関するもの、1 名は塩業に関するもの、1 名はい草（備後表）に関するものであった。3 名の最終的なテーマと発表概要を以下に示す。

雪靴から学ぶ文化 ファッションと歴史と食について 川添舞子 (人間文化学科1年)

雪から足を守る雪靴は、利用される地域によって材質は異なるものの、現代のブーツに形状が似ているものが多い。そこで、日本および世界各地の雪靴について伝統的なものについて調べた。その結果、雪靴の材料がその地域の食文化に関連している可能性があることが分かった。また、ファッションブーツの起源を調べると1100年前には装飾を施した靴が履かれていたことが分かった。

畳の将来性について 佐藤響 (税務会計学科2年)

昭和中期まで松永での一大産業であった畳表について調べた。現在、畳表の8割は輸入であること、国内では熊本県がほぼ独占していることが分かった。熊本県では材料のい草を使って様々な製品を開発し産業としての継続を図っている。それを参考に、福山ブランドとしてのい草の可能性を考察した。

日本の塩のあゆみ 信藤実都 (税務会計学科2年)

昭和中期まで松永の一大産業であった製塩業について、塩業の歴史、近代の法制度の変更による塩業の変化、近年の塩の需給について調べた。日本国内での製塩は塩田式からイオン交換膜方式に変わったこと、近年では外国からの輸入が多く自給率は10%程度しかないことが分かった。

発表会には、鶴崎と岡本氏のほか、大学教育センターの大塚センター長、中尾教授、竹盛准教授、津田講師および日暮助手、そして、福山市から文化振興課、企画政策課、環境保全課の方にも参加いただき、約10名に聴講いただいた。今回の発表会は、「備後に学ぶ地域の課題」の成果発表も同時に行ったこともあり、昨年よりも若干ではあるが多かった。学生の発表について、参加された皆さまから質問やコメントも積極的にいただき、活発な議論ができたと考えている。

また、参加いただいた方に次のようなアンケート調査を行なった。「今回の発表は、あなたの教養を深める、または、知的好奇心を刺激する内容でしたか。」には、「非常にそう思う」、「どちらかというと思う」に多く回答をいただいた。また、「来年度以降も、本授業の発表会を行う予定です。次回以降も聴講したいと思いますか。」という質問にも、半分以上の方が「ぜひ聴講したいと思います」と回答くださった。おそらく、応援や今後の発展を期待しての意味を込めてのものと思うので、次年度にはもう少し受講生を増やし、聴衆も増やす努力をしたい。

今後の課題

残念ながら、昨年同様、今年度も受講生が3名と少なく、教養科目としては寂しい結果となった。自学自習は上手く進まなければ難しく苦しいこともある反面、以下に示すような面白い成果を得ることもあり、楽しく学習を進めていくことができる。来年度以降、さらに学習を進めていきたいと思う受講生が増えるように、学生個々人の状況を加味しながら、指導内容を検討していきたい。

また、この科目は、学生自身で主体的に学習を進めていくことが重要であるため、特に8月から9月の夏休み期間中に調査研究を進めてもらう予定であった。そのため、学生には2週間に1回程度、進展具合



写真2 「松永はきもの資料館」での研究発表



写真3 「松永はきもの資料館」事務長岡本氏による講評

について Cerezo で連絡するよう伝えていたのだが、昨年同様、全般的に滞り気味であった。学生の自主性を尊重することを考え、あまり強く要求はしなかったのであるが、学生の学習状況の把握はやはり重要なので、進展具合を測る方法を検討することが、来年度以降の課題の一つである。

一方、通常の面談日には、体調不良等がない限りは全員出席し、各自しっかりと課題を持って調査を進めていたのが印象的であった。雪靴に関する調査において英語以外の外国語のホームページの翻訳をするなど通常の授業ではなかなか行わないような学習にチャレンジしたり、松永の塩田開発に寄与した「本荘重政」の「荘」の字について彼を祀っている神社などでは「荘」が使われているが福山市のホームページでは「庄」が使われていることに気付くといった新しい発見があったりと、教員側も刺激を受ける授業となったと思う。今回は、学習者の興味関心を比較的上手く引き出せたと思うので、来年度以降も同様の成果が得られるように指導内容を工夫していきたい。

さらに、合同発表会に参加いただいた方へのアンケート調査の自由記述欄において、「発表スタイルはそれぞれ良いところがありました。一方で、掘り下げがさらに進めば良いと思いました」、「調査がもう少し深掘りされ、そこから導きだされる、産業や環境の課題を明確にし、今後の、自分たちがどうしていきたいか、社会や暮らしが良くなるために、何をしていくべきか、政策提案、授業提案のような形まで、もって行っていただけるとより有意義なものになるのではないかと思います。」という指摘もあった。「備後に学ぶ地域の課題」の発表も合わせての指摘ではあるが、教養科目としての完成度をどこまで求めるのかについての一つの示唆として今後の授業展開への参考としたい。また、「過去の発表も、書面で提供いただければ幸いです。」との記述もあり、こちらも来年度以降の発表会への課題としたい。

平成 30 年度は、福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課の協力と「松永はきもの資料館」（あしあとスクエア）事務長の岡本浩男氏の献身的なご協力によって、無事に授業を展開することができた。平成 31 年度も上記のような課題を改善しながら、より充実した授業内容を目指し、学生の地域貢献の意識を高める一助となるようにしたい。

(参考資料 1) シラバスの概要

講義名	松永に学ぶ産業と文化		
開講期・曜日・時限	通年・集中講義扱い	単位数	2 単位
授業のねらい、概要	松永の「松永はきもの資料館」（あしあとスクエア）には、世界中のはきものを始め、地域の伝統産業に関わるものや文化に関するものが展示されています。この資料館を見学することで、産業の栄枯盛衰、文化の継承など、様々な観点から地域について学ぶことができます。そこで、この資料館の見学を通じて、学習者自身の観点で地域の産業や文化について考えてもらいます。		
授業（学習）の到達目標	地域の産業や文化について自身で課題を考え、調査研究することで、地域社会のあり方を考えることができることを目指します。また、その成果をもとに、地域を育み、地域に貢献する精神を身に付けることを目指します。また、学修を通じて、コミュニケーション能力を身に付けることも目指します。		

(参考資料 2) 授業日程と実施内容

日程	内容	実施概要
4 月 10 日～ 18 日	受講説明会	期間中の昼休み時間中に、学修支援相談室にて、受講について（「松永はきもの資料館」見学会、日程など）の説明を行う
4 月 21 日	「松永はきもの資料館」見学会	実施場所：「松永はきもの資料館」（説明者：「松永はきもの資料館」事務長） 実施時間：10 時～12 時（以降は、自由に観覧） 実施内容：「松永はきもの資料館」展示物の見学
4 月 10 日～ 28 日	担当教員の決定 面談日程の決定	受講人数で担当教員を決定（今年度は 3 名の受講のため鶴崎のみ） 担当教員と面談日程（曜日時限）を決定
5 月～6 月	テーマの決定 調査研究の準備	担当教員と 2～3 回の面談を行い、相談の上、決定 資料集めの方法など、調査研究の方法について担当教員と検討
6 月～9 月	調査研究	テーマに沿って、「松永はきもの資料館」などの見学、資料の閲覧、現地調査などを行い、各自で学修を進める 6 月～7 月：担当教員に定期的な報告を行い、調査について指導を受ける 8 月～9 月（夏休み期間中）：各自で調査研究を進める
9 月下旬 ～10 月初旬	中間報告 調査研究内容の再検討	この時点までの調査研究内容をまとめ、担当教員に中間報告する 担当教員と相談しながら、残りの期間で調査研究する内容についての目標を定める

10月中旬 ～11月中旬	調査研究	再検討の結果を受け、各自で学修を進める 定められた面談日程に従って、担当教員に定期的な報告を行い、調査内容について指導を受ける
11月中旬 ～12月中旬	スライドの作成	調査研究の結果から、プレゼンテーション用のパワーポイントスライドを作成する
12月15日	プレゼンテーション	「松永はきもの資料館」にて、パワーポイントによる発表を行う 一般にも公開し、意見を仰ぐ
12月下旬 ～1月末	レポートの作成	プレゼンテーション時の質疑を反映させて、必要なら追加の調査を行い、レポートを作成
1月30日 (締め切り)	レポートの提出	完成したレポートを担当教員に提出

「松永に学ぶ産業と文化」 「備後に学ぶ地域の課題」 成果発表会

共通教育科目(教養科目F群 地域学)「松永に学ぶ産業と文化」と「備後に学ぶ地域の課題」の受講生による成果発表を行います。是非、聴講にお越しください。
学生、教職員は入館無料です(入館の際に、学生証または教職員証を提示してください)。

場 所： 松永はきもの資料館(あしあとスクエア)

日 時： 平成30年12月15日(土) 10:00～



タイムテーブル(予定)

10:00 開会あいさつ

10:05 「松永に学ぶ産業と文化」成果発表

- 日本の塩のあゆみ 信藤実郁(税務会計学科2年)
- い草の将来性 佐藤 響(税務会計学科2年)
- 雪靴からみえる文化 川添舞子(人間文化学科1年)

11:10 「備後に学ぶ地域の課題：芦田川イメージアップの企画」成果発表

- 芦田川について学ぼう ASHIDAGAWA IS ANBIRIBABO!
- 本当の芦田川検定 本当の芦田川を知り隊
- 今の芦田川を知るためのウォークラリー Team 芦田川ラリーズ

11:55 講評(はきもの資料館事務長：岡本浩男氏)

12:05 閉会あいさつ

※ 発表題目、順番等の変更の可能性があります



(参考資料3) 「松永はきもの資料館」での発表会のチラシ